

# 畑にいる虫

## 暖冬の為か、虫たちの動きが活発で...

今年は、外葉が穴だらけになった白菜が多くあります。そういった白菜の内部には、いろいろな種類の虫がいます。体長2~3mmくらいの黒っぽい甲虫(ノミハムシの仲間)、ヤサイゾウムシの幼虫、ヨトウガの幼虫、モンシロチョウの幼虫(アオムシ)、ナメクジなどです。

今回は、その中から沢山出てくる、ヤサイゾウムシ、ヨトウムシ、ハムシ類について調べてみました。

### ヤサイゾウムシ

甲虫目ゾウムシ科に属する、ブラジル原産の帰化種です。成虫の体長は約10mm、日本にはメスだけで、オスはいませんが、単為生殖で増えています。成虫、幼虫ともに、ハクサイ、コマツナ、ダイコン、ホウレンソウなどを食害します。年1回発生し、9月以降に植えたハクサイ、コマツナ、ダイコン、ホウレン草などを食害し、秋と春先に産卵します。その後幼虫がふ化して、春先以降に成虫になります。越冬は主に幼虫で行いますが、時々生きている成虫を見かけることもあります。ハクサイを食害する場合、寒さから逃れるためか、中心付近に向かって穴をあけるため、その葉を取り除いていくと、大きな白菜が中心部だけの小さい白菜になってしまいます。穴以外の部分はきれいなので、もったいない気がします。



白菜に着いたヤサイゾウムシの幼虫

### ヨトウムシ

ヨトウムシは、ヨトウガ、ハスモンヨトウなどがガの幼虫です。非常に広食性で、イネ科以外のほとんどの植物を食害します。私たちの畑でも、アブラナ科(キャベツ、白菜、大根、小松菜など)、アカザ科(ホウレン草)、キク科(レタス、ゴボウ)、ナス科(ナス、ピーマン、トマト)、ユリ科(ネギ)、ウリ科(キュウリ)、セリ科(人参)などが被害を受けます。キャベツや白菜では、幼虫が結球部に潜り込み中心部を食い荒らすので、出荷できなくなることがあります。ずいぶん前になりますが、ヨトウムシの大発生で人参の葉が食い尽くされ、ほとんど収穫できなくなったことがありました。



キャベツにいたヨトウムシ

### ハムシ類

甲虫目ハムシ科の昆虫で、体長は3~4mm。キスジノミハムシ(キスジノミノハムシと書いてあることも)、ダイコンハムシなどがアブラナ科の野菜を食べます。

**キスジノミハムシ**は成虫で越冬し、4月頃より活動します。5月頃、茎葉地際部や根部に産卵します。卵期間は3~5日で、ふ化した幼虫は、深さ10cm以内の土中で幼虫期間10~20日をすごし、蛹になります。これを繰り返し、年間3~5回発生します。

成虫は葉を針で突いたように食害し、葉に1mmほどの丸い食痕が残ります。幼虫は土中で活動するので、大根や二十日大根、蕪などでは、表面にサメ肌状、ナメリ状、孔状などの食痕が残し、出荷できなくなります。

**ダイコンハムシ(ダイコンサルハムシ)**は、成虫のまま落ち葉や土塊の下などで越冬し、4月頃から活動し始め、年2~3回の発生を繰り返します。寒さには強いですが、夏場はあまり活動しません。500日程度と成虫の寿命が長く、その間に1000個以上の卵を、葉柄や葉脈上に産み付けます。秋期の卵から成虫までの生育期間は、卵が約5日、幼虫が15日前後、土中に潜る蛹が約12日。ほぼ一月という短期間で、卵から成虫になります。

キスジノミハムシと違い、成虫、幼虫ともに葉を食害し、根部は被害を受けませんが、食害された葉は、数mm~数cmの無数の穴が開いたようになり、出荷ができなくなってしまいます。



黄色の線が目立つキスジノミハムシ